

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	佐賀県立うれしの特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	・最終評価ではすべてA評価となったが、中間評価段階では「いじめの早期発見早期対応に向けた取組の充実」と「センター的機能の充実」「時間外勤務削減」の3点はB(おおむね達成できている)であった。R6年度も継続して取り組んでいく。
2 学校教育目標	キャリア教育を推進することにより、児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、心豊かにたくましく、積極的かつ主体的に社会に参加し、貢献する人間を育成する。
3 本年度の重点目標	(1) 特別支援教育の専門性の向上と指導力の育成 (2) 学習指導要領に基づいた教育の実践 (3) 希望進路100%の実現 (4) 地域と歩む開かれた学校づくり (5) 命と人権を大切にする安心・安全な学校づくり (6) 働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着。 (○新学習指導要領を踏まえた教育の実践)	○段階や「育成すべき資質・能力」を踏まえた指導目標を立て、手立てを講じ、「付けた力をつけることができた」と回答した教員80%達成。	・「個別の指導計画」の年間目標および各学期の目標設定にあたり学習指導要領の各教科の段階との照会に努め、日々の授業に臨む。 ・外部講師を招聘し、観点別学習評価について学ぶ機会を設定する。「生活」「職業・家庭」「職業」について、昨年度の評価が3観点で評価されているかをチェックし、学年やグループで観点別学習評価を取り入れた評価の在り方について検討を行う。	教務部、各学部、自立活動、研究部、相談支援部
	○「小・中・高12年間の一貫教育」の特長を生かす取り組みの推進 ○特別支援教育の専門性の向上	○小・中・高の各学年・コースで指導内容を見通すことができた」と回答した教員80%達成。 ○職員・保護者への「うれしの特別支援学校スタンダード」の徹底80%以上。 ○授業づくりや、障害に応じた支援に関する研修の実施。	・縦割グループでの研修を通して、小学部の「生活」における「手伝い・仕事」と「役割」、中学部の「職業・家庭(職業分野)」、高等部の「職業」の各項目の関連性に着目し、キャリア発達の視点からみた12年間の指導内容として、順序立てた学びになっているのかについて整理する。 ・授業づくりや、障害理解と支援に関する研修会を実施する。外部研修会や書籍の案内を行う。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○図書を活用した教育実践。 ○社会におけるルールやマナーに関する指導の充実。	・授業時間はもとより休み時間等を含めた学校生活全体を通しての活動において、社会性や道徳心の向上に資する支援・指導・働きかけを行う。	各学部、図書部、自立活動
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上。	・いじめに関するアンケート調査を年5回実施する。 ・高等部生徒の相談体験活動として、年間を通して2回以上生徒と職員の面談の時間を設ける。	管理職、生徒指導、相談支援部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「学校職員は、子どものよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれていると思う」と回答した保護者70%以上。 ●「児童生徒が将来の夢や目標を持つように、一人一人の実態に応じた指導をしている」と回答した職員80%以上。	・児童生徒のよいところを褒めて、そのことを連絡帳などを通して保護者へ伝える。 ・児童生徒が自分で考えたり体験したりして、将来の生活を具体的にイメージする学習の充実。 ・児童生徒が自己の将来とのつながりに見通しをもったり、学習を振り返ったりするなど、授業改善を進める。	各学部、進路指導部
	○希望進路の実現(進路開拓の取組)	○児童生徒、保護者の進路ニーズに応じた情報提供や就業・施設体験の設定を行い、「できている」「おおむねできている」と回答した教員95%以上。 ○希望進路達成率100%の実現。	・地域の企業や施設、関係機関と連携した研修、及び全学部における就業・施設体験の理解、体験先新規開拓。保護者の進路研修(外部講師)の実施。 ・生徒、保護者の進路ニーズに合った就業・施設体験の実施と事前・事後の進路学習の充実。 ・「つながり」「積み上げ」を意識した進路学習や進路相談	各学部、進路指導部
◎積極的で主体的な社会参加	○中学部・高等部の生徒たちの社会参加率90%以上。小学部の児童たちの参加率50%以上。	・学校間交流や地域の方々との体験交流活動を年5回以上実施。 ・部活動として障害者スポーツ大会、嬉野市文化祭への参加の他、アビリンピックへの出場や各種文化的行事や授業作品のコンクールへの出展の奨励。	教務部、生徒指導部、生徒会、部活動、各学部、教科担当者	

●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○担任等が児童生徒の標準体重を意識した指導を計画できたと感じる職員が80%以上。 ○「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか」の質問に、「好き」「やや好き」と答える児童生徒70%以上をめざす。	・4月の身体測定結果から要注意者をまとめ、担任等へ周知、月1回程度の体重測定を実施する。 ・今年度佐賀県で開催される全国障害者スポーツ大会を見学する機会を設け、様々なスポーツに触れ、スポーツに対する関心を高める。	保健部 各学部、担任
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○県西南部地区の特別支援教育のセンターとしての役割を担い、積極的に相談事業を推進し、巡回相談及び来校相談においては依頼に対する実施率100%を目指す。 ○各学部・舎と連携し、地域の事例に役立つために、様々なチーム支援の事例を6事例以上まとめる。 ○分掌部と連携し、地域に役立つ情報提供を行うなど、様々な形で地域支援に取り組む。(4回以上)	・地域支援リーフレット及び巡回相談の案内を発信する。 ・「特別支援教育コーディネーター地区別連絡協議会」や「地域連携研修会」を実施し、地域の学校等のコーディネーターやエリアリーダーとのネットワーク作り及び情報共有を行う。 ・相談支援部の分掌部会で「ケース会報告」の機会を設ける。 ・「各分掌部が持つ専門性とセンター的機能」を一覧にし、年度末に実績をまとめる。 ・学校ホームページに教材等に関する情報を紹介する。	支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○「チームうれしの」を合言葉に一人一人の時間外勤務削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○学部行事の進め方の工夫、情報共有の仕方の工夫、作成する資料の削減などに努める。 ○最大在勤時間11時間以内達成率が70%以上を目指す。	・ひと月の時間外勤務45時間以内(または年間360時間)を職員一人一人が意識する。 ・管理職による出退勤システムの確認と時間外在校時間の把握をこまめに行う。 ・各業務内容の効率化と平準化を図る。 ・会議時間の短縮及び必要に応じて書面開催への変更に取り組む。(資料の事前配布・終了目安時刻確認) ・毎週金曜日の定時退勤日の実施及び管理職面談による業務内容把握と改善。	管理職 各学部主事・分掌主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組			具体的取組	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		
○	○	○	・	
○	○	○	・	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---